

解析学 2 演習問題 第 10 回

問 1

(1)

与えられた式の分母を払って

$$a(1+b)(1+c) + b(1+a)(1+c) \geq c(1+a)(1+b)$$

と同値である。これを展開して整理した

$$a + b - c + 2ab + abc \geq 0$$

を示せばよい。 $a, b, c \geq 0$ だから $2ab + abc \geq 0$ であり、また $a + b \geq c$ より $a + b - c \geq 0$ である。よって

$$a + b - c + 2ab + abc \geq 0$$

が示された。

(2)

三角不等式だけ示す。 x, y, z が任意に与えられたとする。

$$d(x, z) = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{2^n} \frac{d_n(x, z)}{1 + d_n(x, z)}$$

である。ここで各 n に対し $a = d_n(x, y), b = d_n(y, z), c = d_n(x, z)$ とおくと仮定 (iii) から $a + b \geq c$ が成り立つ。そこで (1) の結果を適用して

$$\frac{d_n(x, z)}{1 + d_n(x, z)} \leq \frac{d_n(x, y)}{1 + d_n(x, y)} + \frac{d_n(y, z)}{1 + d_n(y, z)}$$

が得られる。したがって

$$\begin{aligned} d(x, z) &= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{2^n} \frac{d_n(x, z)}{1 + d_n(x, z)} \\ &\leq \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{2^n} \left\{ \frac{d_n(x, y)}{1 + d_n(x, y)} + \frac{d_n(y, z)}{1 + d_n(y, z)} \right\} \\ &= d(x, y) + d(y, z) \end{aligned}$$

となる。

問 2

(1)

必要性. $n \in \mathbb{Z}_+$ と $\varepsilon > 0$ が任意に与えられたとする. $\{x_k\}_{k=1}^\infty$ は x に d について収束するので,

$$\exists K \in \mathbb{N}, \quad k \geq K \Rightarrow d(x_k, x) < \frac{1}{2^n} \frac{\varepsilon}{1 + \varepsilon}$$

となる. すると $k \geq K$ のとき

$$\frac{1}{2^n} \frac{d_n(x_k, x)}{1 + d_n(x_k, x)} \leq d(x_k, x) < \frac{1}{2^n} \frac{\varepsilon}{1 + \varepsilon}$$

となり, 整理すると

$$d_n(x_k, x) < \varepsilon$$

を得る. したがって,

$$\lim_{k \rightarrow \infty} d_n(x_k, x) = 0$$

である. 十分性. $\varepsilon > 0$ が任意に与えられたとする. $\sum_{n=0}^\infty \frac{1}{2^n}$ は収束するので,

$$\exists N \in \mathbb{N}, \quad \sum_{n=N+1}^\infty \frac{1}{2^n} < \frac{\varepsilon}{2}$$

となる. $0 \leq n \leq N$ となる任意の n に対して, $\lim_{k \rightarrow \infty} d_n(x_k, x) = 0$ だから,

$$\exists N_n \in \mathbb{N}, \quad k \geq N_n \Rightarrow \frac{d_n(x_k, x)}{1 + d_n(x_k, x)} < \frac{\varepsilon}{4}$$

となる. そこで $\max_{0 \leq n \leq N} N_n = M$ とすると, $k \geq M$ のとき

$$\begin{aligned} \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \frac{d_n(x_k, x)}{1 + d_n(x_k, x)} &< \frac{\varepsilon}{4} \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \\ &\leq \frac{\varepsilon}{4} \left(2 - \frac{1}{2^N} \right) \\ &< \frac{\varepsilon}{2} \end{aligned}$$

となる. 以上により $k \geq M$ のとき

$$\begin{aligned} d(x_k, x) &= \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \frac{d_n(x_k, x)}{1 + d_n(x_k, x)} + \sum_{n=N+1}^\infty \frac{1}{2^n} \frac{d_n(x_k, x)}{1 + d_n(x_k, x)} \\ &\leq \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \frac{d_n(x_k, x)}{1 + d_n(x_k, x)} + \sum_{n=N+1}^\infty \frac{1}{2^n} \\ &< \frac{\varepsilon}{2} + \frac{\varepsilon}{2} \\ &= \varepsilon \end{aligned}$$

となり, $\lim_{k \rightarrow \infty} d(x_k, x) = 0$ である.

(2)

(1) とほぼ同様なので、省略する。

問 3

(1)

$\{B(f, \rho)\}_{\rho>0}$ が f の基本近傍系をなすことは明らか。そこで

$$\forall \rho > 0, \quad \exists n \in \mathbb{N}, \quad \exists r > 0, \quad U(f, n, r) \subset B(f, \rho)$$

を示す。これが示されれば、任意の f の開近傍に対し $B(f, \rho)$ が含まれるように ρ を取ると、さらに $B(f, \rho)$ に $U(f, n, r)$ が含まれるように出来るので、基本近傍系であることの証明が終わる。 $\rho > 0$ が任意に与えられたとする。 $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{2^n} < \infty$ より、

$$\exists N \in \mathbb{N}, \quad \sum_{n=N+1}^{\infty} \frac{1}{2^n} < \frac{\rho}{2}$$

となる。 $\gamma = \min\{2, \rho\}$ とし、 $r = \frac{\gamma}{4-\gamma}$ とする。 $r > 0$ であり、任意の $n \in \mathbb{Z}_+$ に対して $d_n(f, g) = p_n(f-g) < r$ のとき

$$\frac{d_n(f, g)}{1 + d_n(f, g)} < \frac{\gamma}{4} \leq \frac{\rho}{4}$$

が成り立つ。そこで $p_N(f, g) < r$ とすると

$$0 \leq \forall n \leq N, \quad p_n(f, g) \leq p_N(f, g) < r$$

が成り立つことから

$$\begin{aligned} \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \frac{d_n(f, g)}{1 + d_n(f, g)} &< \frac{\rho}{4} \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \\ &\leq \frac{\rho}{4} \left(2 - \frac{1}{2^N}\right) \\ &< \frac{\rho}{2} \end{aligned}$$

となる。以上により、任意の $g \in U(f, N, r)$ に対して

$$\begin{aligned} d(f, g) &= \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \frac{d_n(f, g)}{1 + d_n(f, g)} + \sum_{n=N+1}^{\infty} \frac{1}{2^n} \frac{d_n(f, g)}{1 + d_n(f, g)} \\ &\leq \sum_{n=0}^N \frac{1}{2^n} \frac{d_n(f, g)}{1 + d_n(f, g)} + \sum_{n=N+1}^{\infty} \frac{1}{2^n} \\ &< \frac{\rho}{2} + \frac{\rho}{2} \\ &= \rho \end{aligned}$$

となるから、 $g \in B(f, \rho)$ であり、 $U(f, N, r) \subset B(f, \rho)$ である。これで証明が終わった。

(2)

(ii) \Leftrightarrow (iii)のみ示す。(ii) \Rightarrow (iii). $\{U(0, n, r)\}_{n \in \mathbb{Z}_+, r > 0}$ が基本近傍系をなすことから,

$$\forall \varepsilon > 0, \exists m \in \mathbb{Z}_+, \exists r > 0, g \in U(0, m, r) \Rightarrow |\Phi(g)| < \varepsilon$$

となる. $C = \frac{2\varepsilon}{r}$ とすると $C > 0$ である. $f \in \mathcal{S}(\mathbb{R})$ が任意に与えられたとする. $|\Phi(f)| \leq Cp_m(f)$ を示す. $f = 0$ の時は明らかだから, $f \neq 0$ とする. $g = \frac{f}{p_m(f)} \frac{r}{2}$ とすると $p_m(g) < r$ より $g \in U(0, m, r)$ であり, 従って

$$|\Phi(g)| = \frac{r}{2p_m(f)} |\Phi(f)| < \varepsilon$$

となる. 整理して $|\Phi(f)| \leq Cp_m(f)$ を得る. (iii) \Rightarrow (ii).

$$\exists m \in \mathbb{Z}_+, \exists C > 0, \forall f \in \mathcal{S}(\mathbb{R}), |\Phi(f)| \leq Cp_m(f)$$

とする. $\varepsilon > 0$ が任意に与えられたとする. $r = \frac{\varepsilon}{C}$ とすると $r > 0$ であり,

$$f \in U(0, m, r) \Rightarrow |\Phi(f)| \leq Cp_m(f) < C \times \frac{\varepsilon}{C} = \varepsilon$$

が成り立つから, (ii)が示された.

(3)

(多分) 前問と同様なので省略する.